

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270201637		
法人名	特定非営利活動法人 つくも福祉グループ		
事業所名	グループホーム大和		
所在地	長崎県佐世保市大和町1114番地2		
自己評価作成日	令和元年8月10日	評価結果市町村受理日	令和元年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしながら「その人らしくいきいきと」をモットーに、一人ひとりがその時々ニーズに合った生活を送れる様、サポートしています。職員皆で考えた理念「その人の人生に寄添います」を新たに掲げ、より一層利用者に寄添った質の高い介護を目指し頑張っています。また、ご家族や地域の方々との連携を大切にしながら、地域に根差した介護を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは閑静な住宅地の一角に位置し、ホーム及び地域での各種行事などを通して地域住民との交流を深めており、地域に根差したホームとなっている。ホーム内は職員の毎日の清掃によって清潔に保たれているほか、家族や来客者への職員の笑顔の対応によって入居者・家族・職員の間信頼関係が育まれている。また、手厚い福利厚生や管理者との円滑なコミュニケーションにより、職員にとって働き甲斐のある職場環境が実現でき、管理者と職員との良好な関係性が家庭的なホーム実現へと繋がっている。看取りや身体拘束、入居者のプライバシーなど各種書類についても整備され、内容について入居者・家族へ丁寧な説明を行うなど誠実な姿勢が窺える。今後も地域との交流を通じた家庭的なホームづくりに期待が持てるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム大和

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	これまでにあった理念は法人としての理念とし、現場での理念を職員皆で話し合い、新たな理念として掲げ実践している。	ホームでは昨年春に決定した『その人の生き方に寄り添います』という理念のもとで、職員の意見を取り入れながら支援を行っている。職員は入居者の思いを受け止めながら可能な限り思いが実現できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館行事への積極的な参加を取り入れたり、ホームの行事に地域の方が参加して下さる。又、道で世間話をしたり頂きもの物があつたりと交流は深まっている。	ホームは各種地域行事など積極的に参加しており、今回新たに地区の公民館で開催される『ふれあいサロン、生き生き体操』へ入居者とともに参加し地域との交流を深めている。また、ホームで行う秋祭りには多数の地域住民の参加がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ふれあいサロンには、ホームに入居されている方も一緒に参加され、職員は健康体操の指導を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの状況や活動報告等を行い、それに伴い貴重な意見やご指導を頂き、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議には公民館長、民生委員、婦人部・老人会長など地域からの参加が多くあり、活発な意見交換が行われている。会議では身体拘束に対するホームの取り組みを説明を行うほか、議事録についても参加者以外が見ても分かりやすいよう口述形式で記載されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して貰い、ホームの状況や実績・取り組みなど把握して頂き、助言を頂いている。又、地域包括ケア会議に参加させて頂き、ホームが出来る事には協力している。	市担当者とは各種申請時の窓口訪問や実地・集団指導、市主催の研修案内、アンケート依頼、各種事例について相談しアドバイスをもらうなど連携を図っており、関係性も良好となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新たに平成30年6月4日に身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、年に4回委員会(緊急の場合はその都度)を実施している。基本的には身体拘束は一切しませんとご家族様に入居時に説明をしている。玄関の施錠は手薄な時に限り施錠を行っている。	身体拘束等適正化委員会は施設長・職員(看護師、社会福祉士含む)・家族代表で構成され、検討した内容について運営推進会議開催時に報告し、その際にホームの事例検討を再度行っている。職員に対する研修についても『その行為は虐待に当たるのでは』と互いに問題提起し、話し合いを重ねるなど有意義なものとなっている。これらから身体拘束排除に向けた職員の意識が高いことが窺われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は積極的に内外の研修に参加し、ホームの勉強会時に他の職員へ報告し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に積極的に参加し、ホームでの勉強会時に報告している。又、運営推進会議の時にも報告し、参加者の方から実際経験された話しをして頂いた。必要な時があれば活用して支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には数回、ご家族様と面談や電話でのやりとりで説明を行っている。その中で不安な事やわからない事があればすぐに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中やご家族様との面会時・電話対応時などいつでも意向が伺える様な環境を作っている。又、家族会の時にも意見や要望を伺いサービスの向上に繋げている。	ホームでは家族会の際に入居者の各担当者から各家族に対して意見を伺い、面会時にも会話の中で思いを汲み取るよう努めている。意見が出にくい入居者については、職員からの声掛けを工夫する旨を介護計画の目標に掲げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見が言える様な雰囲気作りに努めており、職員の方から出向いて意見や提案がある。勉強会時や申し送りの時にも職員が発言出来る様に努めている。	ホームでは定期的に職員勉強会を開催し、その月の支援の振り返りや次月の計画など意見交換を行い運営に反映させている。管理者は率先して職員の会話の輪に入りアドバイスなど積極的に行い、意見や提案を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「出来る限り働きやすく、働き甲斐のある職場作りを！」と心がける様にしている。育児や介護等、休日の取りやすい職場環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習等の学ぶ機会を大切に考えており、研修や講習の参加希望を呼びかけている。又、月1回の勉強会で内部研修も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会があり、ホームの状況や困った事・分からない事など話し合い解決出来る様に協力し、サービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の段階で面談を行い、不安な事や悩み・ご本人様の要望はないか聞き取り、安心して入居出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に数回の面談や電話連絡で説明を行い、相談を受け心配ごとや不安な事を取り除ける様に、安心して利用出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の意向を伺い、身体的・精神的な悩み等を把握し、現状のニーズに合った幾つかの支援を提案し、ご本人様に意向に沿った支援が出来る様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様と会話をする中で、色々と知識を持たれており、漬物の作り方や編み物の編み方・壁飾りの演出の仕方など教えて頂いたりして、一緒に知恵を出し合いながら互いに支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等がある時にはご家族様にも連絡を行い、一緒に楽しめる様にしている。面会時や電話連絡にてご本人様の状態の報告をし、情報を共有し共に支援出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親類・友人との行き来が現在もあり、電話で話をしてホームに尋ねられて来られたり出掛けられたりされている。	職員は入居者の趣味活動や家族・親類からの電話の取り次ぎ、近所に住まう親類宅への訪問同行など、入居前の生活が継続できるよう支援に取り組んでいる。日々の支援を通じて把握した情報については個人記録に記載し、職員間での共有を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクレーション時や日常生活の中で、よく利用者様同士が会話をし笑い声が聞かれている。又、他者の洗濯物をたたんで下さったり、下膳されたりしてコミュニケーションが図れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様とばったり会った時には、お互いの近況報告をしている。行事の案内の手紙や電話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にご本人様の意向を伺い、出来る限り意向に沿える様に努めている。利用者様の精神面や行動・動作など記録し、担当者を中心に申し送り時や会話の場で検討を行っている。	ホームでは入居者毎の担当職員が居室の管理や状態把握、家族との情報交換を主に行い、1ヶ月毎に全職員で介護計画を検討している。個別に把握した情報については個人記録に記載し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にこれまでの生活歴を利用者様やご家族様からお伺いし、情報を記録に残している。その後も利用者様やご家族様との会話の中で、新しい情報があれば記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定にて体調を把握し、変化がある時には記録に残し、情報を職員間で言葉をかけ合いながら共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様に担当者が意見や要望を伺い、沿う様に職員間で話し合い、医師の指示や助言・ホームの看護師のアドバイス等を取り入れ、介護計画を作成している。	職員は入居者本人及び家族の思いを丁寧に汲み取り、介護計画に反映させている。6ヶ月毎にサービス担当者会議を行いプラン内容を見直すほか、短期目標を日々の実施記録に明記し職員が支援に活かせるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアを記録に残している。毎月ごとの評価にも現状はどうであったかを記録して情報を共有している。必要時には早めに介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の趣味の物作りで必要な物を一緒に買い物に行ったり、急に「親類の家に行きたい」と言われ、親類の方に連絡を取り手配をしたり、急な病院受診など状況に応じた対応が出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の役員の方よりお誘いを受け、出来るだけ公民館行事には参加させて頂き、利用者様がそれぞれに合った、地域資源を活用し楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医を希望される方もおられる。ご家族様や医師との連携を図り情報を交換し、適切な医療が受けられる様に支援している。	ホームでは提携医による往診が月1回、歯科医については随時往診にて対応している。入居前のかかりつけ医や他科への受診については基本的に家族対応とし、受診時に入居者の生活状況を記載したものを渡し、結果はその都度報告を受け、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時や普段と違って様子がおかしい時には、看護師に伝え情報を共有している。又、看護師が一人一人のバイタル測定時に問診を行い、気づきがある時には介護職員には伝え必要時には、ご家族様や病院にも連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時には病院関係者と情報交換を行い、退院後の生活等を病院から指示を仰ぎ、早期に退院出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様とターミナルについて話し合っている。又、年2回の家族会の時にも説明をし、健康管理表に記入して貰っている。必要時には個別で説明をし、ご家族様の意向を伺い、主治医に報告、指示を受け職員全員で今後の方針を共有しケアを行っている。	年2回開催している家族会で終末期に向けたホームの取り組みを説明し理解を得るとともに、入居者一人ひとりの健康管理表に宗派や互助会、寺院など本人・家族から聞き取った情報を記載し、家族の喪失感や様々な思いに配慮した支援に努めている。看取り時期の判断については主治医が行い、施設長から家族へ伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会時、看護師に〇〇様が急変した時の対応の仕方を尋ね、看護師はその方の予測出来る急変の対応について話をします。又、職員は実践力を身に付ける様に、研修への参加を促している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎月一回の避難訓練を実施。職員の動きがスムーズになっている。運営推進会議にて災害時の避難場所や避難場所が開いているかの確認の電話を何処にするのかを把握出来た。近隣の方の電話番号も登録されている。	ホームでは毎月避難訓練を実施しており、訓練には近隣住民や消防署員の参加がある。訓練内容については運営推進会議にて報告し、会議参加者から得たアドバイスを次回訓練に活かしている。また、有事の際に備えてホーム独自に避難場所の下見に出掛けるなど、災害に対するホームの意識が高いことが窺われる。	ホームでは緊急時に持ち出せるよう入居者の各種情報を一覧表にしているものの、作成にあたっての事務作業の負担が窺われる。例えば処方箋情報を複写したり全入居者の情報を一つにまとめたりするなど、作業効率化に向けた今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり違った人格でその方に合った言葉かけを行っている。一人の時間を大切にされる方もおられ、ゆっくりと一人で過ごせる様に配慮している。	職員は入居者に対してプライバシーに配慮した丁寧な支援・対応を心掛けている。リビング壁面の掲示物やホーム便りなどへの入居者の写真掲載については入居時に家族へ趣旨を説明し、個人情報同意書にて同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時の表情や体調を把握しながら、一人ひとりに合った言葉かけを行い、自己決定が出来る様支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはほぼ決まっているが、職員側の業務を優先している時もある。なるべく沿えられる様に努めていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員の中に理容師がおり、利用者様から髪を切って欲しいとか、好みの髪型にして欲しいと希望される事がある。又、季節に合った服を職員と一緒に選ばれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	親類な方より、野菜や果物・お米を頂いたき、皆さんで献立を立て皮をむいたりして楽しませている。好まれない料理は代替えをしている。	献立は調理担当職員が一週間分のメニューを決めて食材の仕入れを行っており、嗜好・アレルギー調査をもとに代替食の提供も行っている。行事の際にはバイキング形式で提供するなど食事が楽しめるよう工夫するほか、季節感のある食材の使用や入居者それぞれの摂取量にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録しており、一人ひとりに合った食事量を提供している。体調の変化や嚥下状態に合わせ料理の形態も変えている。水分が十分ではない方には言葉かけを工夫して摂取して頂ける様に言葉かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った口腔ケアの行っている。夜は義歯を預り洗浄液につけている。入所前からの習慣で夜だけ磨かれる方もおられ、その方には朝・昼の食後にはうがいを促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄後には排泄表にチェックを入れて排泄状況の確認ができています。トイレ誘導や確認の必要な方にはおおまかな時間を決めて誘導・確認・介助を行いトイレで排泄が出来る様に支援している。	職員は生活リズム表(排泄チェック表)に記録し、入居者一人ひとりの排泄状況の把握に努めるほか、排泄の失敗についてもプライバシーに配慮し、さりげない声掛けを心掛けている。尿取りパットやリハビリパンツの適切な使用については定期的に検討し、家族の金銭面での負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	果物や野菜・消化の良い物を提供したり、毎日の運動にて便秘予防に努めている。便秘症の方には主治医や看護師に相談しそれぞれに合った内服で排便のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿ったタイミングで入浴は難しいが、曜日を決めて週2回入浴して頂いている。希望により入浴剤を入れている。入浴を断られる方には職員が交代して言葉かけをしたり、時間を置いたり毎日言葉かけを工夫している。	入浴は基本的に週2回マンツーマンで対応しており、希望があれば毎日入浴することも可能となっている。入浴の拒否や体調不良などがある場合は入浴日を変更するなど臨機応変に対応している。職員は入浴剤や柚子、菖蒲などを使用し、入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様に合った自分のペースで入眠出来る様に支援している。巡回時には安眠出来る様に居室の温度調整も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方された薬の説明書がいつでも目を通せるように個人ファイルに閉じている。薬の変更があった時には看護師より説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や、得意な事・出来る事を十分に発揮出来る様に日常生活の中に取り入れ、自分はこういう事が出来るという自信や達成感を味わって頂ける様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望で、その日に外出やドライブ等には行けないが、予定を立てて買い物やドライブ・花見に行ったりしている。ご家族様に連絡をして一緒に参加出来る様に支援している。又、花火大会や秋祭り等の行事に地域の方も参加して頂いている。	ホームでは花見などの行事以外にも近隣スーパーへの買い物支援やベランダでの日光浴など、入居者の気分転換を図っている。また、個別で散歩に外出し近隣住民と言葉を交わすなど、地域住民と触れ合う機会も多くある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理されている方がおられる。買物支援に出かけた時には、横について見守りを行っている。又、レクレーションで「お店屋さん」を開き、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話も持っておられる方もおり、ご自分でかけている時もあるが、わからない時には職員に尋ねられる。ご家族様や親類の方に電話をかけたいと言われる方には、職員が番号を押してご本人様に渡してお話をされる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごせる様に換気や温度調整をこまめに行ったり、日差しの眩しい時や日差しが欲しい時にはカーテンを開閉している。ホームの所々に季節の花を生けたり、壁には季節が分かる様な飾りつけを行っている。	ホームリビングは風通しが良く、窓の開閉や消臭剤・次亜塩素酸などの使用で清潔感のある共用空間となっている。また、各所に季節毎の生花が活けられ、壁面にも季節に合わせた飾り付けが施され、ゆったりと過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの所々にソファを置いて利用者様同志、お喋りしながら洗濯物をたたんでいたりと、時には一人で考え事をされている時がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりに合った居室の配置をしている。ご本人様やご家族様と話し合ったり、自宅で使用されていた物を持って来られ、居心地の良い居室になっている。	ほとんどの居室が畳敷き且つ腰窓となっており、入居者にとって落ち着ける場所となっている。室内には入居者馴染みの品が持ち込まれ、入居者の担当職員が家族と相談した上で模様替えを行うなどしている。火気類や高額品など持ち込み不可の物については入居時に説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動導線には手すりを設置している。一人ひとりの出来る事はそれぞれであり、必要な言葉かけや介助を行い、安全に移動出来る様に努めている。		